

編集後記

今月号の特集は予防治療です。通常は重篤な疾病の発症を未然に防止するための治療というふうに理解されています。予防治療の問題のひとつに、治療を行わなくても想定される重篤な疾病が必ずしも生じるわけではないということがあります。すなわち、予防治療を受けた患者さんのなかには、結果的に治療が不要であるひとたちが含まれるにもかかわらず、医療費を支払って、治療による合併症のリスクを覚悟してその治療を受けることになるということです。裂孔性網膜剥離予防の網膜裂孔に対するレーザー光凝固や原発閉塞隅角症疑いに対する治療で問題となります。今回の特集には含まれませんが、広範囲の無血管野を示す虚血型網膜静脈分枝閉塞症に対して、硝子体出血の予防目的で行われるレーザー光凝固治療も同様です。治療を受ける患者さんの一部は、レーザー光凝固治療を受けなかったとしても、硝子体出血を生じないわけで、そのことを、今月号の連載「網膜静脈閉塞症の疑問」で取り上げています。米国では1986年のBVOスタディの報告に従って、フルオレセイン蛍光眼底造影検査で広い無血管野が確認されても、周辺網膜へのレーザー光凝固をただちには行わない方針となっています。経過観察して新生血管を確認した後はじめてレーザー光凝固を開始する治療方針が推奨されていま

す。しかし本邦では新生血管を確認する以前にレーザー光凝固が行われることが多いようです。

今月はじめに東京で開催された網膜硝子体学会では、主要なトピックのひとつがOCTアンジオグラフィー(OCTA)でした。本号の綜説ではその総論的な解説と糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、加齢黄斑変性という主要な網膜絡膜血管病でのOCTA研究の成果がたいへんわかりやすく解説されています。急速に進歩しているこの分野の知識を整理するうえで時宜を得た貴重な綜説です。

iPS細胞の臨床応用として、加齢黄斑変性への再生治療が注目を集め、ニュースなどでも繰り返し報道されています。一方、角膜領域における臨床応用に関して、Stevens-Johnson症候群などでみられる角膜上皮幹細胞疲弊症への応用も着実に進んできています。本号の特集ではこれまでの成果と今後の道筋がわかりやすく解説されています。

そのほかDrusenの分類、ボツリヌス毒素製剤の話題、緑内障EX-PRESS手術、大量の斜視術量に対するボツリヌス毒素の利用の症例報告など読み応えのある内容が満載の本誌をお届けいたしますので、ご堪能いただきたいと思います。

(飯島裕幸・記)

編集：飯島裕幸・富田剛司・坪田一男・後藤 浩・雑賀司珠也・門之園一明・三村 治
編集顧問：所 敬・小口芳久・白井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治

「眼 科」 第59巻 第13号 12月号

2017年12月5日発行（毎月1回5日発行）
定価（本体2,700円＋税）

年間講読料金 定価（本体42,100円＋税）
〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03 (3811) 7165〔編集室直通〕

Tel 03 (3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

雑誌部 振替口座 東京 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY<(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。